

常盤 盤 小 学 校



[illegible]

で	し	し	し		と	を	階	る	ろ	ま	な	ご	身	リ
す。	な	ま	た。	そ	が	す	段	と	か	し	の	い	長	ま
特	ど	し	視	し	分	る	を	き	ら	た	は	と	や	し
に	を	た	カ	て	か	の	の	、	お	た	が	思	方	た
小	見	。	や	、	り	か	の	止	し	だ	イ	い	向	。
さい	たら		手	わ	ま	言	ぼ	ま	たり	手	ド	ま	が	あ
文	、		指	が	し	葉	る	る	し	を	の	し	分	く
字	見			ね	た	で	と	と	ない	ひ	声	た	か	し
や	え		歩	を	。	伝	き	き	で	っ	け	。	る	々
黒	づ		行	か		え	、	、		ぱ	だ	、	と	を
い	ら		の	け		れ	必	曲	出	た	と	聞	聞	す
文	か		体	て		ば	ず	が	発	り	分	い	いて	る
字	っ		験	、		い	次	る	す	後	かり	、	、	た
	た		を	す		い	に	と				大	け	で
						こ	何	き				切	す	

が見えづらかったです。
その次に、手指体験をしました。
手に手ぶくろをして、お皿の上に
上がっている豆をちがうお皿の上
に置くのをやりました。とても、
つかみづらかったです。
最後に歩行体験をしました。目
にアイマスクをして階段を上った
り歩いたりしました。アイマスク
をする前が見えなくて、階段を
上るのがとてもこわかったです。
そして、階段を下りるのが上るの
よりもとてもこわかったです。階
段を下るときや上るときに声が
けをしてもらった。意外にやり

やすかったのでも、ぱり声かけが
大事だと分かりました。体験をし
て一番むずかしかったのは、豆を
つかんで移動するのと、階段に上
ったり、下りたりすることです。
ぼくは、体験をして、高齢者の
人や目の不自由な人の気持ちが分
かりました。足や手につけていた
おもりをとると、すごく軽い感じ
がしました。目の不自由な人は毎
日、こんなこわい思いをしている
をわかりました。すごく苦労して
いるんだなと思いました。ぼくは、
目の不自由な人の気持ち少しで
も分かったのでも、今まで以上に福

社に？いて興味をもつことができ
 ました。このことから、目を大切
 にして、健康にしていきたいと思います
 ました。
 そのほかにも、耳のことを知り
 ました。耳のことでは、高齢にな
 ると、耳が遠くなり、特に高音が
 聞こえにくくなるということが分
 かりました。聴力の低下は、二十
 歳代から始まり、男性の方が低下
 が大きいと聞いて少しこわくなり
 ました。あと、背中が曲がり上体
 が前屈になると、歩幅がせまくな
 り、両足が地面についてる時間が
 長くなることが分かりました。筋

力が低下するので姿勢に気をつけ
 ながら毎日をすごすようにしたい
 と思いました。
 これからは、お母さんや、お父
 さんが年をとるので、サポートし
 ようと思いました。お母さんや、
 お父さん以外でも、道を歩いてい
 たときに大変そうにしていた人な
 どを見かけたら、ほっておかない
 で、すぐ声をかけて、福祉で勉強し
 たことを守りながら生活していき
 たいと思いました。そして、困っ
 ている人を少しでも喜ばせたり、
 相手を安心させたりしたいと思い
 ました。安全・安心の町はみんな



	こ	ま	に
	と	し	と
	が	た	っ
	分	。福	て
	か	祉	も
	り	の	や
	ま	勉	さ
	し	強	し
	た	を	い
	。	し	町
		て	た
		色	と
		々	分
		な	か
			り



福祉体験をして分かったこと

常盤小学校 六年

古川 梨湖

私は、高齢者疑似とアイマスク
体験をやって分かったことがたく
さんあります。

まず、手首におもりなどをつけ
ましたが高齢者の体はとても歩き
にくいなと思いました。また、曲
がった姿勢で歩くことで、とても
つかれがでると気づきました。

次に、特しな眼鏡をつけてチ
ラシに書いているものを読み上げ
ていくということをやりました。
いつもよりとても見づらく、いつ

うの文字のサイズでも読み取るの
に数秒かかりました。小さい文字
のとき、自分の顔とチラシの間が
数センチしかなくてびっくりしま
した。

次は、手をつかって豆をとなりの
皿に移すということをやりました。
これは意外と簡単でした。け
ど、本当に手が不自由な人はどれ
ほど大変なのか知りたいと思いま
した。

次にやったのがアイマスクをつ
かって階段を上るということです。
アイマスクをつけると、視界が真
っ黒でとても不安でこわかったで

す。	でも	周りに	いる	人の	サポ	ー	ト
や	っ	え	を	た	より	に	一段
い	き	まし	た。	や	っ	ぱ	り、
て	く	れ	る	と	安	心	で
え	な	い	人	に	と	っ	て
階	段	を	上	る	と	き	や、
た	る	と	き	な	の	か	な
目	が	見	え	な	い	人	の
ロ	ッ	ク	を	わ	ざ	と	歩
に	自	転	車	を	止	め	た
よ	う	と	思	い	ま	し	た。
私	の	家	に	は	お	じ	い
あ	ち	や	ん	が	い	ま	す。
や	ん	は	よ	く	テ	レ	ビ
つ	モ	音	量	が	大	き	い

[illegible]

ホートをするこ^ろとで、高齢者や障
 がい者の人でも私たちと同じよう
 な暮らしができているということ
 です。困っている人たちが安心で
 きる居心地のいい町にしていきたい
 ことです。そのために、もし目の不
 自由な人がいたら、
 「信号が青になりましたよ」
 と声をかけてあげたり、電車やバ
 スの中で空いている席があつたら、
 「空いている席がありますよ。座り
 ませんか」
 と声をかけ、安心させてあげたい
 なと私は思いました。また、重い
 荷物を持^っている高齢者がいたら、

「いっしょに荷物、持^ってあげま
 しょうか」
 と言^ってあげたいです。
 地域の人だけではなく、学校の
 みんなも助けてあげたいです。た
 とえば、泣^いてる子がいたら
 「大じょう夫。どうしたの？」
 と声をかけたり、分からないこと
 があつたら、やさしく
 「こうするんだよ」
 と言^ってあげたいです。このよう
 なやさしいなことでも私は、リッパ
 な福祉だと思^います。
 私は福祉をやり、困^っている人
 や不安な人のためにもい^だんの暮

福祉体験活動から学んだこと

常盤小学校 六年

角田 七海

福祉という言葉には、

だんのくらしを、あわせ

にするという意味がこめられてい

るようです。そのことを初めて知

たときは、とても感心したので、

私はその意味をし、かり心にとめ

ながら、福祉体験活動に取り組み

ました。

まず、視力が悪くなる体験をし

ました。特別なゴーグルをつけて

ちらしを見ました。視界がとて

もぼやけました。ちらしを見ると

きはかなり目を近づけないと見え

ませんでした。もっと簡単にでき

ると思いました。小さい物や、

ゴーグルと色が同じちらしはとて

も見にくかったです。高齢者にな

ると、目に現れる特徴として「老

人性白内障」という病気があるそ

うです。色の区別が難しくなり、

まがたが下がってくることで視野

がせまくなるそうです。常にその

状態になると大変だと感じたので、

代わりに文字を読んであげたいと

思いました。

次に、手と指が不自由になる体

験をしました。手袋を二枚はめ、

豆をつかみましたが、指が太くな
り、動かしにくかったです。骨が
変形し、筋力がおとろえると、そ
のような感じになるのだと思いま
した。お年寄が、ものを取るとき
に大変そうにしているときは、手
伝ってあげたいと思いました。
最後に、歩行しづらくなる体験
をしました。手や足におもりを付
け、その他に腰を曲げるためのア
イテムを付けました。歩行の時は
つえを使って歩きました。足にお
もりを付け、腰を曲げているので
ひざも曲がり、とても歩きにくか
たです。それを続けていると歩幅

がせまくなり、両足が地面につい
ている時間が長いので、歩くスピ
ードが遅くなりました。一緒にア
イマスクをして、上り下りする体
験もしました。アイマスクをする
と目の前が真暗になり、何も見
えなくなりました。すごく不安に
なりました。目の前が見えない状
態で段差を上り下りすることは、
とても怖かったです。誘導してく
れる人のうでをし、かりつかみ、
指示をよく聞いて動きました。上
りより下りが怖かったです。踏み
はずしてしまおうと落ちてしまおうと
いう不安がありました。ついで場

所を探しながら下りました。目の
不自由な人は、いつもこんなに不
安なんだと改めて思いました。
これらの体験を通して、たくさ
んのことを学びことができました。
目、耳、手、指、姿勢など、人々
れぞれ不自由な場所は違いますが
目が不自由な人には、声をかける
と安心できると思います。階段の
上り下りは、声をかけてくれる人
がいるのといないのでは全然違
います。手と指が不自由な人には、
動かすのが大変なので、指や手を
動かすとき、手伝ってあげればい
いと思います。耳の不自由な人に

は、身ぶり手ぶりで思いを伝えた
りすればいいと思います。また、
目の不自由な人はつえを使って歩
行している人もいます。なので点
字ブロツクの上に物を置いたり、
自転車を停めたりするのはやめて
ほしいと強く感じました。
このように、私達にできること
はたくさんあります。そういう人
を見つけたら進んで助け手伝って
あげたいと心に決めました。
自分の祖父母など身近な人から
手伝いを始め、つかわいそうにな
どとは思わず、思いやりの心をも
て接したいと思いました。不自



	よ	由
	う	な
	に	人
	か	た
	ん	ち
	は	が
	り	幸
	ま	せ
	す	な
	。	気
		持
		ち
		に
		な
		る



福祉あふれる町づくりに向けて

常盤小学校 六年

佐藤 亜紀

宮城に住んでいる私の祖父は、
目が見えません。祖父がいつから
目が見えないのが、詳しいことは
聞いたことがありませんが、祖父
はおどろくほど元気です。ご飯を
食べる時も一人で食することが
できますし、家でマッサージ師も
やっていて、患者さんが笑顔で帰
っていくので、目が見えないのに
すごいな、といつも感心させられ
ています。

二学期に学校で福祉体験をした

のですが、おどろいたことがあります。
それは、目が見えない人との
歩き方が決まっているというこ
とです。祖母が、祖父と一緒に歩
く時もその歩き方でした。サポ
ートする人は、目が見えない人が
不安にならないように歩くことが
大切だと勉強しました。祖父と話
すとき、たまに私は冷たい態度を
とってしまうことがあります。高
齢者は、サポートが無いと、生活
環境において、無気力感や病気へ
の不安が高まってしまうそうです。
サポートのポイントとして、
「傾聴」「受容」「共感」があります。

傾聴は、人の話を聞くこと、受容は受け入れること、共感は、相手の気持ちや考えを共有することです。この三つのことを頭に入れ、祖父に優しく接、したいと思います。

この他にも、私達にできることがあります。それは、声をかけることです。信号が青になつたときに声をかけるだけで、安心して横断歩道を渡ることができます。反対に、私達がやつてはいけないことがあります。それは、ふだん乗ることのある自転車を点字ブロックのじやまになるように停めるこ

とです。点字ブロックの上に停めると、目の不自由な人は大変困ります。また、店の前に自転車を停めることも目の不自由な人にとっては、大変危険なので絶対にやめてはいけません。

話は変わりますが、福祉という言葉を知っていますか。私はこの福祉体験で初めて知ったことがあります。それは、福祉の「ふ」は「ふだん」の「ふ」で、「く」は「くらし」の「く」です。福祉があふれる町づくりをするためには、建物や道路を様々な人が

使いやしく工夫することでも大切で
すが、一人ひとりの「心づかい」
も大切です。「思いやり」をもつ
こと、「親切にする」ということ
ももちろん福祉になります。

「誰もが安心して暮らすことが
できる福祉の町づくり」のために
自分の考えを持ち、その中から「
自分ができること」と「みんな
でできること」を考えてみてはど
うでしょう。こんなことをすれ
ばよいのか分からないときや、ど
んな活動が自分の町にあるのか知
りたいときは、「社会福祉協議会
」に相談するのがよいそうです。

社会福祉協議会は、福祉のまちづ
くりを目指して、地域のみなさん
やボランティア、役場、学校、会
社などと協力し合い、福祉活動を
行っている団体です。社会福祉協
議会が行っている活動には、地域
の方々やボランティアの方々、協
力した「見守り活動」、「住民と
の交流」、「生きがいづくり」、
「福祉情報の発信」、「相談」、
「募金活動への協力」などがあり
ます。
もっとも、福祉のことを勉強
し、様々な活動へ協力できれば、
素晴らしいことではないでしょう。

か。
私は、福祉のことを詳しく知っ
て、感じたことが色々あります。
これからの生活で高齢者や、体の
不自由な人と接するときのポイ
トをじっかり頭に入れることを忘
れません。小さな親切の積み重ね
が福祉の町づくりを作り上げてい
くと思うので、がんばっていこう
と思います。

